

授業科目

医療福祉機器論

【担当教員名】 大鍋寿一	対象学年	2・3	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

<概要>

医療福祉機器および、施設設備の基本について学習し、さらにその臨床応用に際してテクニカルエイド（医療福祉機器）の適用技術ならびにその安全性・信頼性の確保について理解を深める。各種医療福祉機器について個別にとりあげ、それらの基礎知識といかに適用するかを理解することに努める。

<学習目標>

1. 医療福祉機器の必要な背景を理解し、自分達の役割を認識する。
2. 共用品・ユニバーサルデザインの基本的考え方を理解し、その応用例（施設設備、自助具等）の知識を付ける。
3. 各種車いす等移動医療福祉機器についての知識を深めるとともに、人間と医療福祉機器の相互関係を理解する。
4. 介助用品ならびに姿勢保持システム、クッションの知識をつける。
5. コンピュータ利用生活環境関連機器の知識をつけ、その応用技術を理解する。

回数	授業計画又は学習の主題		学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	医療福祉機器の必要性	医療福祉機器の必要な背景について学ぶ。	講義
2	医療福祉技術の変遷	社会的ニーズにもとづいた医療福祉技術の変遷について学ぶ。	講義
3	医療福祉技術の課題	医療福祉用具の研究・開発の課題（ニーズ、規格等）について学ぶ。	講義
4	ユニバーサルデザイン	共用品・ユニバーサルデザインの基本的考え方とその例について。	講義
5	自助具	生活の中の自助具ならびに共用品・ユニバーサルデザインの例の追加。	講義
6	車いす総論	車いすの歴史、種類、基本構造等車いすの概要について学ぶ。	講義
7	各種車いす	各種車いすについて学ぶ。	講義
8	各種車いす	各種車いすについて学ぶ。	講義
9	姿勢保持システム	シーティング姿勢保持システム、クッションについて学ぶ。	講義
10	各種歩行支援機器	各種歩行器（車）（含むジンジャー）、杖、その他歩行支援機器について	講義
11	介助用品	介助用品（各種昇降装置・リフター、移乗アシスト器具を含む）について	講義
12	生活環境関連機器・技術	生活環境関連機器（各種ベット・入浴関連機器等）・技術について学ぶ。	講義
13	コミュニケーション関連機器	障害者用コンピュータ、コミュニケーション関連機器について学ぶ。	講義
14	ネットワーク利用福祉機器	ネットワーク利用福祉機器について学ぶ。	講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	バリアフリーのための福祉技術入門	足立芳寛・後藤芳一監	オーム社	1998年・3,800円
参考書	車いすのヒューマンデザイン	R.A.Cooper著 田中 理・大鍋寿一監訳	医学書院	2000年・4,500円
その他の資料	古川 宏・黒岩貞枝編	協同医書出版	2001年・3,500円	随時プリントも使用する。

【評価方法】 定期試験・レポート・出席状況から総合的に評価する。	【履修上の留意点】 医療福祉機器分野の基本的な講義である。
-------------------------------------	----------------------------------